

令和3年4月17日

3 学年保護者対象進路説明会あいさつ

- 皆さまこんにちは、校長の都丸でございます。
- 本日は、お忙しい中、保護者対象進路説明会にご参加いただき厚くお礼申し上げます。
- 生徒の進路決定というのは、我々教員と生徒で行うわけではなく、保護者の皆さんを含めて、生徒、保護者、教員の3者が共通認識、共通理解を持ちながら進めていくこととなります。
- そのことから、本日このようにご参加いただける保護者の皆さまには、大変お忙しい中、ありがたく、感謝の気持ちでございます。
- さて、今年度の進路状況でございますが、新型コロナウイルス感染症の影響が1年以上続いていることからしますと、非常に厳しい状況にあると考えております。
- 文部科学省が1月15日に発表した昨年度の高等学校の就職内定状況から見ますと、就職を避け、専門学校や大学などの進学に移行する傾向も出てきたようです。
- また、大学側にも昨年度は多少の変化がありました。指定校推薦で不合格となるケースが出てきています。以前からも大学によってはこうしたことはなかったことではありませんが、これまでそうしたことがなかった大学もそのような方式をとっています。
- そんな状況もありますので、私からは保護者の皆さま方に対するお願いとして、お子様としっかりと進路の話をしていただきたいということです。
- どういうことかといいますと、将来の目標をどのように考えているかということについて、共通理解をしておくことが大切だと思っています。
- 例えば、「看護師になりたい」「保育士になりたい」などの目標あがるとすると、経路として大学から目指す方法もあれば、専門学校から目指す方法など様々な方法があります。もちろん大学からしか進めないものもあります。
- 目標を定めておくことで、様々なルートを探ることもできます。
- 分からないことは多いと思いますが、我々教員と連携して、子ども任せにしない。子どもと進路の話をしっかりといただき、私どもとともに、進路希望に向かって、しっかりとサポートができるようにながちりとスクラムを組んで進んでいきたいと思っております。
- そして情報をしっかりとキャッチしていくことが必要です。特にお金の件は、とても重要になります。いつ、いくら必要になるのか。また、そのための制度があるのか。ここは、保護者の方がしっかりと抑えておいてもらいたいところです。

- 以前、私が保護者の皆さんと大学ツアーにいったことがあるのですが、その際に、「ここの施設はよい」「通いやすい」「食堂がよい」などから、「ここを受けさせたい」「ここを受けさせよう」などといった話をしていました。
- 大学や専門学校への進学は、あくまでも通過点であり、目的をもって決めなければならないのは、本人です。本人の主体性が大切だと思います。
- もちろん費用が掛りますので保護者の皆さんも当事者であることは間違いないことですが。
- 我々教員や保護者の皆さんはそれを支える役割であるということを共通認識させていただきたいと思います。
- 本日は、様々な情報をご提供させていただくこととなります。情報をたくさん持って帰っていただければと思います。
- 最後に、マザー・テレサは「愛の反対は憎しみではなく無関心だ」といっています。皆さん、お子さんに関心をもって進路の話をしてください。本日は、どうぞよろしく申し上げます。